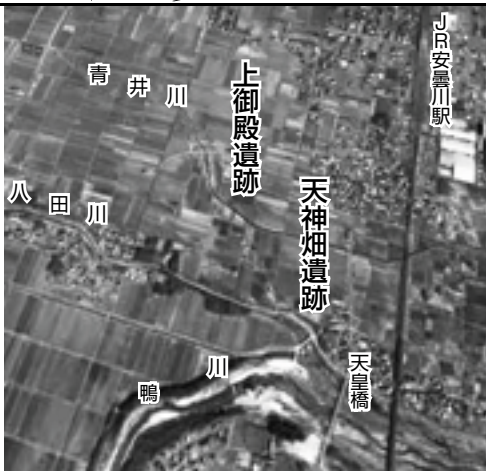


# 天神畑・上御殿遺跡とは

遺跡とは、私たちの遠い祖先の人々が土地に刻んだ記録といえます。遺跡には、住居跡や古墳・墓ありとあらゆるモノが含まれていて、そこから出土したモノを遺物、検出された跡を遺構と呼び分けています。高島市内にも約400か所ほどの遺跡が確認されています。それらの中には、集落跡・生産跡・寺院跡・城跡・古墳・墓など多彩であります。

天神畑・上御殿遺跡は、高島市の南部、鴨川が大きくその流れを東に曲げる北側、集落としては、今の北鴨から三尾里にかけての西に位置します。発見のきっかけは、特に天神畑遺跡・古墳・墓など多彩であります。

天神畑・上御殿遺跡は、高島市の南部、鴨川が大きくその流れを東に曲げる北側、集落としては、今の北鴨から三尾里にかけての西に位置します。発見のきっかけは、特に天神畑遺跡・古墳・墓など多彩であります。



畑遺跡において、田地の掘削中に完形の土器が出土したところからと聞いています。まさに、遺跡の発見は偶然の賜物といえます。

今回の発掘調査は、青井川の改修工事に伴う事前埋蔵文化財調査ということで、平成20年度から滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会によって実施されました。

この遺跡群の調査からわかったことを、古い順からならべてみますと、先ず最初に今から約1700年前、弥生時代から古墳時代にかけての墓や竪穴住居跡の検出にはじまって、大壁造り建物と学術用語で呼ばれている壁立ちの一边が約10mほどの建物跡が検出されました。この建物のルーツは朝鮮半島にあり、渡来系の人たちが持ち込んだ建築様式が、高島の地にもいち早く伝えられたことを暗示しています。

次に、奈良時代から平安時代に至っては、倉庫群や掘立柱建物群などが検出され、進んだ文化が流入し、人々が生活していたことが分かります。

また、鎌倉時代から室町時代にかけては、薄板に仏教のお経(金剛般若波羅蜜経)を記した「こけら経」の残片が出土したり、鎌倉時代の完全な鉄製

轡(馬具)が出土し、私たちが驚かせました。

ここから初夢のごとくこの遺跡群のイメージを膨らませていきますと、まず始めに、今からおおよそ1700年前に、鴨川の左岸のほとりに人が住み始め、しばらくすると朝鮮半島から新しい生活文化を持った人たちが移って来、次に南市東遺跡や下五反田遺跡、八反田遺跡へと拡散して行ったようです。

奈良時代になると、都から北陸へ向かう官道の北陸道が近くを通り、人々の往来が頻繁になり、倉庫群を構えた村が形成されていきました。

鎌倉時代から室町時代には、仏教文化の一つ「こけら経」や馬事文化の貴重な轡も、この地に入ってきました。しかし、それ以後、遺跡には人の痕跡は見られません。

遺跡の発掘調査は今後も継続されて行くことから、これからも新しい発見があることを、私たちは期待しましょう。

高島歴史民俗資料館  
030(30)1553

**編集者のつぶやき**

表紙は、マキノ北小学校で行われたマキノ東小学校との合同書き初め練習のようす。「お正月」や「日の出」など、新年らしい言葉が筆で力強く書かれました。筆で書かれたといえば、平成23年を表す漢字「絆」。選ばれた理由は、大震災をきっかけに、家族や友人、地域のつながりの大切さを再認識された方が多かったからとのこと。年が変わっても、この「絆」は大事にしたいですね。皆さんにとって今年も良い年でありますように。(広報担当S)



▲御殿川から望む遺跡群

広報 たかしま

平成24年 1月号

No.144

発行/高島市 編集/政策部企画広報課  
H020-15002 滋賀県高島市新旭町北畑の5番地

030740(5)80000(代)  
http://www.city.takashima.shiga.jp  
+info@city.takashima.shiga.jp